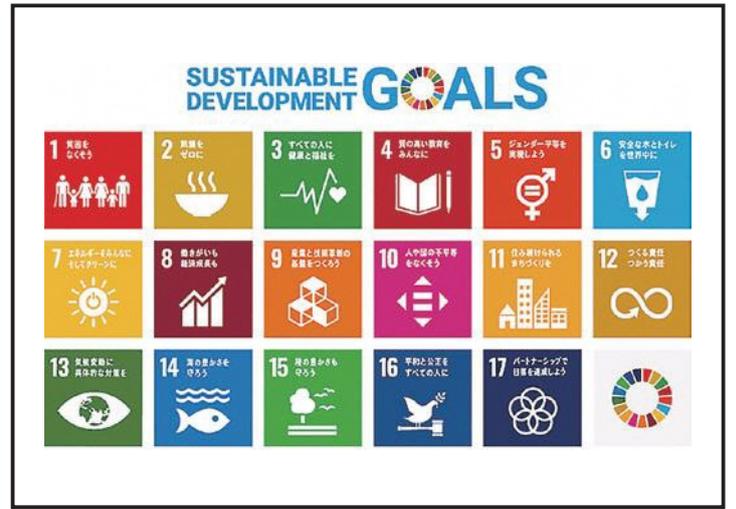


## 特集 地域医療の今後について

東通村は、高齢者に対する医療についても、今まで以上に考えていかなければならないかもしれません。濱近医師は「単に病気を治療するだけでなく、長く自宅で過ごせるような医療が必要だと思います。そのためには訪問診療を含めた医療体制を守り続けること、薬を飲みすぎないようにすること、体力が落ちてきた方にはリハビリや介護のサポートを早めに導入することが肝心です。また、頼れる家族、親類が少ない人への見守り、サポートを手厚くすることで、病気の進行や介護必要度を下げることが必要だと考えます」と話してくださいました。



2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（エス・ディー・ジー・ズ）持続可能な開発目標）が日本でも注目されており、その中に『すべての人に健康と福祉を』という目標があります。この目標に対し、東通村ではどのようなことが求められ、どう取り組むべきなのでしょう。

濱近医師は「東通村で育ち、働き、穏やかな老後を過ごすことができる。そんな東通村にしていきたいと考えています。東通村診療所では、可能な限りの治療を行い、並行して介護環境も整える体制を日々強化しているところです。健康のことや介護のこと、それだけでなく経済的な問題、移動手段の問題、教育や子どもの福祉など、医療とは一見関係ないことでも、東通村で過ごすために必要なことについては、なんでも診療所で相談を受け付けていきます。医師、看護師、保健師、ケアマネージャー、役場の担当者が常に連携していますので、どこかに気軽に相談してもらえれば

必ず相談に乗り、解決方法を探っていく『総合的な』診療所を目指しています」と話してくださいました。

現在は、診療所での診療のほかにも、訪問診療、電話診療などを活用し、ご自宅でも診療を受けられるようにしています。訪問診療を受けられた方は「来ていただけで、先生と話もできるので、非常に助かりますし、一人だと話す人がいないから、いつも楽しみにしています」と話してくださいました。一人暮らしの高齢者の見守りも行っているのだということが分かりました。

診療所では今後、SNSなどを活用し、若い世代の方々にも、診療所をもっと身近に感じていただけるようにしたいと考えているということです。

**今回取材にご協力いただいた  
濱近医師は東通見聞録でも紹介しています！**